

## 総合評価

## 【城西子ども園関係者評価委員による判定及び講評】

	評価項目	評価判定		関係者評価委員	
		保護者	保育者	判定	講評
基本	入園に当たっての重要事項説明会や入園・進級式の際に入園のしおりの説明を行っています。これまでに園の保育理念や目標などの説明を受けていますか。	A	A	A	●これからは「学び」と「自ら考える」ことが求められる。状況に応じて、評価項目、内容を検討する必要がある。●園の基本方針、重点目標を全職員が理解し、園児一人一人を大切にしたい保育指導がなされており、結果として保護者が城西子ども園を信頼し、保護者の安心感、感謝の気持ちに繋がっている
教育保育の内容と質の向上	保育者は、子どもが今何に興味関心をもっているか、どうしたらもっと遊びが広がっていくかなどを考え、見通しをもった計画を立て保育に当たっています。保育者は子どもの発達や興味関心に応じた保育に努めていると思いますか。	A	A	A	
	保育者は保育の質の向上のために、園外や園内の研修に取り組みながら、子どもの主体的性を育む手だてを考えています。保育者は、子ども自身が” やってみたい！” と思うような保育の工夫に努めていると思いますか。	A	A	A	
	保育者は、絵本に親しむ環境を整備し読み聞かせを心掛け、絵本から広がる遊びを大事にしています。子ども達には言葉やイメージの世界が広がっていると思いますか。	A	A	A	
	保育者は、子どもが行事の負担にならないように心掛けています。今年度はコロナの影響で行事も形を変えましたが(運動会、きらきらおたのしみかい、きらきらはっぴょうかいなど)お子さんは喜んで参加していましたか。	A	A	A	●子どもの興味・関心が主体性を生むという道筋が研究され徹底し常に工夫されている。
保健・環境	保育者は毎月、園舎や遊具の点検、クラスハザードマップや安全チェックリストでの確認や、玩具などの消毒や環境の整備に努めています。保育者は、子どもが安心して園で過ごせるように努力していると思いますか。	A	A	A	●園の取り組みの成果が結果として表れている。
	保育者は、毎月の防災の日に火災、地震、風水害、不審者などの避難訓練を行い、年二回の交通安全教室や散歩時の交通指導を行っています。保育者は、安全、防犯に努めていると思いますか。	A	A	A	●コロナの影響では行事を臨機応変に形を変え、対応していることはすばらしい。この事は次を考えるヒントになる。
	保育者は、感染症拡大予防マニュアルに基づいた消毒等の対応や感染症と思われる発生状況を玄関に掲示するなどしています。保育者は、感染拡大予防に努めていると思いますか。	A	A	A	●コロナ渦の中、子ども達の活動の様子を様々な方法を用い、保護者に伝えようと努力されている。保護者の評価判定からも、保護者の理解は十分に得られて熬と思う。(保護者の意見からも見て取れます)
連携支援	園やクラスの状況を、育ちのレポートや園だより、クラス便り、ホームページなどで知らせたり、写真やマップ等を使って保育が見えるように努めています。コロナで部屋には入れない、会話もままならない、そういった状況の中で、クラスの状況や子ども達の学びの様子を知るのに玄関の「キラキラがいっぱい」の掲示物は役に立ちましたか。	A	A	A	●子ども自ら健康に関心をもち、心と体の機能を高めていく健康支援が随所に出ている。遊びの中での危機管理能力が育ち、安全な生活が出来ている。
	保護者から寄せられた意見や要望について園や保育者は出来る限りの対応を心掛けています。園や保育者は誠意ある対応をしていると思いますか。	A	A	A	●一部の保護者との情報交換が十分でなかった場面もあったようですので、少しでもコミュニケーションの機会を多もつよう努めて下さい ●保護者との信頼関係の構築は、日々の受渡の時の言葉かけや連絡帳の活用が基本です。これからも子どもを中心に捉え、保護者と園(担任)が情報窮していつて下さい。

食育	じゃがいもや野菜などの栽培・収穫の体験やクッキングの機会を多く設けています。また、未満児も彼岸団子作りや餅つきで丸めたり、ケーキにトッピングしたり、出来る範囲で参加し、また、以上児の作ったものをご馳走してもらうなどの交流も行っています。こうした取り組みは子どもが食べる喜びを感じたり、食べ物に興味をもつきっかけとなると思いますか。	A	A	A	●園では子育て支援センターとして様々な支援を行っているが、評価項目としてあがっていない。どう項目に入れるかを検討する。
	コロナの影響で、給食やおやつを試食は出来ませんが、毎月、食育に関する情報や献立予定表などを配付したり、「今日のランチ」の写真を事務室カウンターに貼り出したりしています。これらは、園の給食やおやつを知ってもらうことに役立っていると思いますか。	A	A	A	●多様な状況の中にある今日、園児一人一人に適切な対応をしている努力に感動する。
教育保育の内容と質の向上 (未満児)	0, 1, 2歳児は伸び伸びと体を動かし、この時期の遊びが充実したものとなるよう、個別の計画を立て、一人一人の興味や関心にあった環境を心掛けています。保育者は、子どもが自ら体を動かそうとする意欲を育てていると思いますか。	A	A	A	●道徳心の涵養については、身についたかどうか評価が難しい。保育場を繰り返しじっくりと育ててください。
	保育者は優しく声をかけたり、スキンシップをとったりしながら子どもたちに接するように心掛けています。お子さんは、好きな先生と安心感を持って過ごしていると思いますか。	A	A	A	●どの項目もよく分析され、今後の対応策まで考えられている。
	保育者は、散歩に出かけたり、戸外遊びを行ったり、外気に触れながら自然に触れる機会を多く取り入れる様にしています。子ども達は自然に親しみ、触れあう中で冷たい、暖かい、きれい、不思議などの感覚や感性が育っていると思いますか。	A	A	A	●一人一人の教職員の質をどう高めるか…。やはり日頃の研鑽だと思いません。研修(講話、研究保育、他園訪問など)をこれまで同様深めて下さい。ひいては城西子ども園のブランドを高めることに繋がります。
教育保育の内容と質の向上 (以上児)	保育者は仲立ちをしながら、子ども達が生活や遊びをよりよくしようとする姿を認めたり励ましたりしながら関わっています。保育者は生活や遊びの中で、してよいことや悪いこと、ルールがあることや自分も友達も大切なことなど、子どもの道徳心や規範の芽生えを育もうと努めていると思いますか。	A	A	A	
	保育者は、同年齢と異年齢の中で育つそれぞれの良さを大切にしようとしています。異年齢児との関わりのなかで「みようみまね」の伝承や、思いやりの心、あこがれの心などが育っていると思いますか。	A	A	A	●園内研修は勿論のこと、保育者同士の対話や場をとらえての保育を考え合うなど、日常の中にある自己研鑽の機会を大切にしたい。新人、若手保育者を交えて、互いに高め合ってますます質の向上に努力して下さい。
連携支援	例年、小学校と連携を取りながら、小学生を招待してじゃがいもパーティーや卒業を祝う会を設けたり小学生との交流会や体験入学、あるいは小学校の先生方の保育参観と10の姿の共通理解のための研修会を行ったりしています。園や保育者は子ども達が小学校への憧れや期待をもち、スムーズに入学できるよう努めていると思いますか。	A	A	A	
教育保育の内容と質の向上 (職員)	あなたは、子どもが主体的な活動や豊かな体験が出来るような遊びの環境や援助の仕方の工夫に努めていますか。		A	A	
	あなたは、保育の振り返りを行い、改善に心掛けていますか。		A	A	「園の評価をすることは、家庭と園と地域と一緒に子育てをするための評価」この言葉を受け止め、幼児期の終わりまでに育って欲しい子どもの育ちの方向として10の姿を共有し、さらに精進されることを望みます。
	あなたは、園内外の研修に出来る限り参加し、質の向上に努めていますか。		A	A	

## 《評価の観点》

教育・保育の基本

教育・保育の内容と質の向上

保健・環境

食育

連携《保護者・地域・小学校》

### 関係者評価委員会による評価を終えて

- ◎ 新型コロナの渦のなかで、保護者とう連携をとっていくか、保護者に、日々の子どもの姿をどう伝えていくかが最大の課題であった。昨年度の評価の折には、可視化を次年度の課題にあげていた。その点では、玄関にその日の遊びの一部を切り取り、写真などで見える化したドキュメンテーションを、玄関に掲示してきた事に対しての一定の評価を得ることが出来た。しかし、掲示の場所が玄関と言うことで、送迎の時間が重なると、ゆっくり見ることができないとのご意見もあり、見せ方にも一考の余地がある。また、写真を撮ることに重きを置いて、保育がおざなりになってはいけなしいし、撮りっぱなしになってもいけない。撮る人の子どもを見る目、保育を見る目は確かか。私たちは写真のプロとしてではなく、保育のプロとして、「みる、切り取る、伝える」の力量を問われる。
- ◎ 項目について、職員間では戸惑いが見られたようだが、これらの項目は資質をあげる視点でもあるので、自問自答する、あるいは研修を行うなどして理解を深めることに努めることなど、評価委員の皆様から頂いた貴重なご意見、ご助言をもとに、さらなる改善を目指していきたい。